

前月末の子どもの姿

低月齢児：身近な大人と信頼関係が深まり、情緒が安定してきた。座る、つかまり立ちなどの運動面の発達が見られる。体調を崩しインフルエンザにもなる。

中・高月齢児：手をつないで散歩ができる・保育者の仲立ちで友だちと一緒に遊ぶことを楽しむ・着脱を自分でしようと、うまくいかない時も多く、保育者に援助を求めたり怒ったりする・体調を崩しインフルエンザに感染し休む子が多かった

ねらい：保育者との仲立ちにより、様々な人と関わることを楽しむ・安心できる保育者との関わりの下、運動、言語、生活面において自分でしようとする気持ちを持つ。

指さしや喃語に応答してもらうことで、言語を発することを楽しむ。体を十分に動かして遊ぶ。

安全・健康：他クラスで異年齢の友達と触れ合う機会を設けるときは、事前に0歳児にとっての危険物がないかを確認する・自己主張が激しい時期なので、子どもと一緒に遊びながら個々の表情や行動が把握できる位置につく。

冬の健康管理に配慮し、保育室の温度、湿度、子どもの衣服の調節をする。転倒によるけががないよう、子どもから目を離さない。

	内容	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助
養護	<ul style="list-style-type: none"> ●○衣服の調節により、快適に生活を送れるようにする。 ●オムツが濡れていないときはトイレやオマルに行き、便器に座ってみようとする。 ●見守られているという安心感の中で、自分でしたいという気持ちを表現していく。 ●○感染予防のため、食事の際は丁寧に手を拭いたり、保育者と一緒に手を洗うようにする。 ●○食事の前後や衣服が汚れたときには、保育者に清潔にしていもらい、きれいになった心地よさを感じる。 ●○泣いたり、笑ったり、大きな声を発することで、自分の欲求を表現しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●○エアコンや加湿器を併用することで、快適な温度、湿度を整える。また、季節の変わり目は体調を崩しやすいので、室温、湿度、換気に気を付ける。 ●便座に座ることを嫌がる。 ●オムツが濡れていないことが多い。 ●活動別にスペースを区切るなどし、子どもの生活を見渡せる、危険のない安全な環境を整える。 ○個別のガーゼを用意し、使用したエプロンは水洗いをして清潔にする。 ●室内外の気温差に配慮し、室内の温度設定をする。 ●ガーゼは、濡らして温めておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●咳や鼻水など、風邪がみの子どもが増える。 ●様々な場所へ行く。 ●保育者に、オムツが汚れたことを知らせる。 ○口や手を拭かれることを嫌がる。 ○自分で食べようとする。 ●特に気温差が激しいので、衣服の調節をこまめに行い、気持ちよく過ごせるようにする。 ●トイレに行く友達を見ることで、少しずつ関心が向くようにする。 ●手や口が汚れたら、拭いてもらう。 ●体や衣服が汚れたら、言葉やしぐさで保育者に知らせる。 ●自分の思い通りにならないと、怒る。 ●気に入らないことがあると、ひっくり返って大声を出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●オムツが汚れたと感じたときに「おしっこ出た？」と声をかけ、少しずつ自覚できるようにする。 ●オムツが汚れたことを保育者に知らせたときは、十分にほめ、次の意欲へとつなげる。 ○感染症が流行り始めた場合は、感染予防のため玩具はこまめに消毒し、おやつや給食時も、より丁寧に手を拭き、消毒を行う。 ●十分に探索活動が行えるように保育環境を整え、けがのないよう職員間で連携し、子どもから目を離さない。 ●○「きれいになったね。気持ちいいね」など、保育者が手や口を清潔にしながら体感したことを言葉で表現することで、清潔になる心地よさを感じ取れるようにする。 ●「～して欲しかったんだね」と言葉を添えて欲求を満たすことで、満足感が味わえるようにする。
教育	<ul style="list-style-type: none"> ●登る、降りる、跳ぶ、くぐる、押す、引っ張るなどの、運動を取り入れた遊びを楽しむ。 ●○保育者の仲立ちにより、友達と関わって遊ぶ。 ○つまんだり、引っ張ったり、握ったり指先を使って遊ぶことを楽しむ。 ○友だちや保育者と一緒に、同じあそびの雰囲気を楽しむ。 ●異年齢児との交流を楽しむ。 ●興味のある絵本を保育者と一緒に見ながら、簡単な言葉のくり返しや模倣をして遊ぶ。 ●自分の欲求を、言葉で伝えようとする。 ●保育者の優しい言葉かけや援助で、身の回りのことをする。 ●○安心して保育者の見守りの中で、自分の好きな遊びを十分に楽しむ。 ●喃語や片言を優しく受け止めてもらい、保育者とのやり取りを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●登る、降りる、跳ぶ、くぐる、引っ張るなどができる遊びのスペースや玩具を用意する。 ●安全に遊びを楽しめるように、スペースを広く取る。 ○子どもたちが興味を持てる玩具や絵本を用意する。 また、玩具の消毒を徹底する。 ○少しずつ友だちの関りが楽しめるように、一緒に座って楽しめる環境をつくる。 ●1歳児クラスの保育室に遊びに行く日を設定する。 ●自分の思いを言葉で伝える友達の姿や、温かい眼差しで話を聞く保育者の姿を示す。 ●自分で着脱をやってみようとする友達の姿や、温かく見守る保育者の姿を示す。 ●○子どもが自分で好きな玩具を取り出せるところに、個々の発達に応じた玩具を清潔にして配置する。 ●○保育者間で連携し、子どもの表情や行動が把握できる位置に付く。 ●喃語や一語文や片言で自分の思いを表現する友達の姿や、それを受け止める保育者の姿を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●登る、降りる、跳ぶ、くぐるなど、様々な体の動きを楽しむ。 ●保育者に援助を求める。 ●○声を出し、手をたたいて喜ぶ。 ●保育者の言葉をくり返したり、言葉のやり取りをしたりする。 ●積み木などで一人遊びをする。 ●友達のまねをして、一緒に遊ぶ。 ●玩具の取り合いをする。 ○近くの玩具をつかんだり、引っ張ったりする。 ○手に取った物をなめる。 ●1歳児クラスの保育室で過ごすことを喜ぶ子や、戸惑って保育者から離れない子がいる。 ●絵本の中で知っている物があると、指差しや言葉で知らせる。 ●友達の姿をまねて、やってみようとする。 ●身の回りのことがうまくできず、怒って途中でやめる。 ●○自分の好きな動きで移動し、探索活動をする。 ●○近くの玩具をつかんだり、引っ張ったりする。 ●○友達の遊びに興味を持ち、友達の遊んでいる玩具を取る。 ●保育者に喃語や片言で話しかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ●○安全な環境を整え、けががないように全体に目を配る。 ●気持ちを代弁しながら、友達と触れ合う楽しさが感じられるような言葉かけをする。また、友達との関わりがうまくいかないときは、子どもの気持ちが伝わるような言葉を引き出す。 ○手遊びは、体に触れながら、興味もてるような工夫をする。 ●分かりやすくゆったりと話し、言葉のくり返しの面白さが味わえるように工夫をする。 ●「自分で」という子どもの意欲を大切に。失敗してもよいという温かい気持ちで関わり、やってみようとする姿を支える。 ●○子どもの気持ちを理解し、自分のペースで探索活動が楽しめるようにする。 ●○一人で遊んでいるときは見守り、十分楽しめるように環境を整える。 ●○保育者の仲立ちを通して、友達と遊ぶ楽しさが感じられるようにする。 ●保育者が簡単な言葉を添え、友達と言葉のやり取りを楽しめるようにする。

職員との連携：低月齢児、高月齢児と、保育者が分かれるなどして子ども一人一人に合った落ち着いた環境を整えられるようにする。

家庭との連携：体調についての連絡を密に取り、家庭でも感染症予防に努めてもらう。家庭には室内の温度・湿度を徹底管理していると伝え、薄手で動きやすい服を用意してもらう。

<自己評価>

<取り組みの状況と保育士の振り返り>

<食育の取り組みの状況と振り返り>

--	--	--